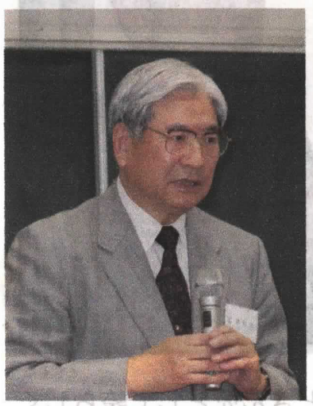
郷土史 ていね
第 13 号
平成 21 年 1 月 14 日
手稲郷土史研究会会報

「郷土史」解明前進の年に

手稲郷土史研究会
会長　國 井 和 夫



あけましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

手稲郷土史研究会のこの1年は、研究に次ぐ研究でした。毎月2時間以上の研究例会を持ち、歴史専門家のご高説に耳を傾け、また、会員の研究成果発表に感嘆し、時に、手稲の遺跡、遺構の課外授業で、在りし昔に思いを馳せ、近隣に足を伸ばして、歴史的関連を探る。会員は、郷土史道程に学びながら、弾む心で、未来に向かう手稲の発展を夢みているのです。

研究会は、昨年1月に「会報」（ていね）を創刊。毎月欠かさず、今13号を迎えています。また、“手稲鉱山”など4つの研究グループが発足し、それぞれの自主研究を深めつつあります。会員もいつの間にか66名（11／1現在）に及び、例会への出席も、常時40名前後と盛会です。去る11／15に、手稲区と共催した「手稲歴史講演会」は、一般公募にかかわらず、区民ホールが満席となり、改めて、区民の「手稲」への思いの深さを知らされました。

今年は「手稲区誕生20周年」の記念すべき年に当りますが、区自体も手稲に現存する資料の集大成を図り、ホームページを作成して、区民はもとより、世界への発信を試みられることは、私共研究会にとっても、誠に心強い限りです。

研究会は、この区制20周年を期に、更に、郷土史解明に精進し、手稲発展の力にしたいものと考えているところです。

手稲区、手稲区連協はじめ、多くの皆様の変わらぬご指導をお願いして、年頭のご挨拶といたします。

— ◇ — ◇ — ◇ — ◇ — ◇ — ◇ —

《手稲の誇りとナゾ：1》 軽川（手稲）に鶴がいた?!

「軽川原野（追分〈今の新発寒方面〉ノ湿地等に産卵ヲナシタリ）鶴群ヲナシテ遊ビ居レリ」と新春にふさわしい記録がある（明治44『手稲村史原稿』より）。ほんとうだろうか？　いや、新川河口近くでタンチョウ撮影（平成6年5月3日道新）。さらに昨平成8年4月2日には隣の石狩市浜益川近くの水田へもタンチョウの姿(道新)と続々と発見。手稲前田、発寒は縄文時代まで大湿地と海が入りこんでいた砂丘地帯であり鶴など野鳥のパラダイス。ちなみに隣のハチヤム（発寒）はアイヌ語の櫻鳥 → コムクドリに由来し、この手稲、発寒は手稲山麓と大湿地帯で昔から野鳥の天国。キジも多く、最近まで、よく遊びにきていた。

［文責：野村武雄］

次回の予定

次回（2月11日）は、永井道允氏の会員研究「ほまれ町内会よもやまばなし」と吉田寛義氏の会員研究「前田利為候とシベリア出兵」を予定しています。

第 32 回（平成 20 年 12 月 10 日）定例会の講演要旨

開拓の村、中島宏一先生「馬車鉄道」のご講演から学んだこと

師走を迎えての定例会は、北海道開拓の村事業課長中島宏一先生『開拓期における洋風文化の導入 ～馬車鉄道の建設とその遺構～』と題してのご講義でした。約 40 名の参加会員は、馬車鉄道の歴史を大変わかりやすく終始笑いにつつまれながら学習させて頂き、予定時間 90 分がまたたくまに過ぎ去っていきました。質問も続出という盛況ぶりでした。

感想も交えながら項を幾つか起こして整理してみましょう。

- 先ずは部厚い馬鉄の解説書『北海道における軌道 ～ 馬車鉄道から路面電車へ』を手にし、これ一冊で馬鉄のオーソリティ（？）気分にさせてもらいました。
- 馬鉄の始まりがイギリスの産業革命に端を発したという、遠いむかしに世界史で学んだ記憶が一瞬よぎったでしょうか。
- 我が国最初の軌道は、明治 2 年茅沼炭山に建設された牛車軌道である。どさん児として誇らしくも思い、泊村への旅の楽しみがひとつふえました。
- 我が国鉄道史のなかで、馬鉄の位置づけも知りました。明治 13 年「陸蒸気」が手稲を走ったのです。北海道の馬鉄はずっと遅れて明治 30 年に函館に開業した「亀函馬車鉄道」でした。
- 明治 30 年、40 年代には、北海道も含めて日本の馬鉄分布図からその多さを理解しました。馬鉄建設の背景も資料で学習しましょう。
- 札幌に目を転じ、明治 42 年石山からの軟石運搬に「札幌石材馬車軌道」、そして札幌市街へとレールを伸ばしていき、大正 7 年かの有名な開道 50 年記念北海道大博覧会開催、急きょ馬鉄から電車へ切り替えて、やがて市電への誕生となったのです。
- 手稲の大事な大事な「軽石軌道」、こうした馬鉄史の大きな流れの中で教えてもらいました。新潮「旅」ムックの新資料も一読の要有りですね。札北馬鉄で使用された車両の写真、軽石軌道にも払い下げされた車両と同じ型か調べたいものです。
- その他運行形態等も含め、馬車鉄道の一切について触れて頂き、この参考書を熟読することにより、私たちも馬鉄検定試験合格まちがいありませんね。

最後に会員一同で確認していきたいことを記してみます。手稲の歴史遺産としての「軽石軌道」について、現在「脱線した馬鉄風景」の写真 1 枚、当時のレール片、会社関係書類あるのみです。たかだか 90 年にもならん前のことすら記録収集の不十分さ故に、ケイセキなのかガルイシなのか呼称すら確定できません。写真でも文書でも聞きとり等々でも、馬鉄に限りませんが、ひとりひとり意識して手稲史の掘り起こしに汗して参りましょう。中島先生の資料収集にかける熱意に啓発されながら ……。

［文責：茂内義雄］

鉱山部会の例会と役員会のお知らせ

鉱山部会の次回例会は 1 月 19 日です。鈴木清士会員の研究発表「手稲鉱山の鉱物・鉱石について」と野村武雄会員の指導で「手稲鉱山について」（浅田政広著）の学習会を行います。

例会の後（15 時から）は、役員会です。

会場は、手稲区民センター2 階　第 3 会議室